

## 宝塚市街路樹管理計画 シンボルロード「花のみち」

### 花のみちの歴史

花のみち（市道武庫川通線）は、元々は武庫川の自然堤防であった場所で、1924 年宝塚大劇場の開場にあわせて、駅から大劇場へ向かう道として「花のみち」（歌劇への“花道”になぞらえて命名されたという）が造成されました。

自然堤防の時代に堤防補強のために植えられた松の木が巨木となって木陰をつくり、春には桜の花が咲き誇っています。

1960 年以降には、宝塚ファミリーランドと宝塚歌劇へ向かう道は、市民及び観光客で大いににぎわっていました。宝塚ファミリーランド閉園後も、宝塚歌劇や市立手塚治虫記念館などの本市を代表する観光資源へと誘う遊歩道となっています。



花のみちの桜の木及び花などは、市民及び観光客が親しみ、観光資源としても貴重な存在であるので本市の「シンボルロード」として位置づけ、適切な維持管理により花のみちの街路樹景観を保全・継承していきます。



## シンボルロードとしての魅力

### 1. 四季折々の花と植物の風景

桜（ソメイヨシノを中心に春）、他にも季節ごとの花が植えられています。春の桜のトンネルは人気が高く、マツ並木やクスノキなどによる“緑の骨格”が景観に落ち着きを与えています。



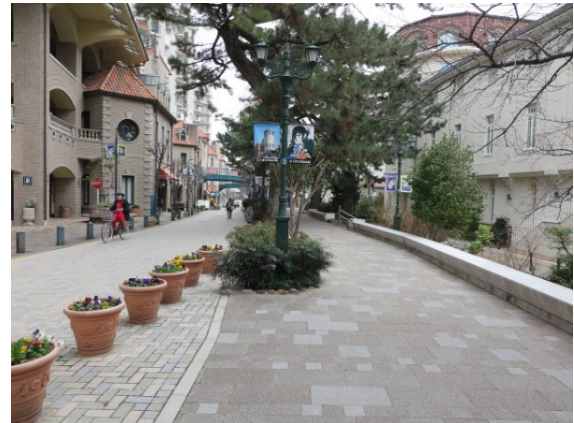
### 2. 歌劇・宝塚文化との結びつき

宝塚大劇場へ続く道として、訪れる人々の期待を盛り上げるしつらえや雰囲気があり、通り沿いにあるモニュメントや銅像が、宝塚歌劇やその代表作との関連性を感じさせています。



### 3. 散策や買い物・飲食が楽しめる空間性

通りには商業施設があり、グッズショップやカフェ・レストランなどが点在。散歩の途中に立ち寄れる場所が多く立地しています。



### 4. 風景としての建築・街並み

道の両側、近辺には洋風建築的なデザインが用いられ、劇場の建物・ホテルの外観なども含めて、“異国的”あるいは“舞台的”な雰囲気作りがされていて、非日常感があります。





「花のみち」位置図



「花のみち」東端部



「花のみち」歌劇場付近